

運動部活動の指導者育成をめざして

—学外実習としての部活動指導体験の取り組みから—

小田佳子*・斎藤正晴**・木村華織***

1. はじめに

2012年末に起こった桜宮高校バスケットボール部員の自死に端を発し、柔道女子日本代表選手らによる体罰・暴力告発、岐阜県内サッカークラブでの傷害罪判決など、スポーツ指導の一環と称される体罰や暴力の現状が次々と表面化した。学校教育や運動部活動、さらに地域スポーツクラブなどのスポーツ指導場面で依然として存在している体罰・暴力に対する痛烈な批判が、日本列島を駆け巡った。これらの体罰問題は、学校教育の問題だけでなく社会問題としてもマスコミ等に大きく取り上げられた。

一連の体罰問題発覚以降は、文部科学省および日本体育学会、体育科教育学会といったスポーツ・体育関連の学術団体でも問題視され、シンポジウム等で取り上げられるようになり、大いに議論的となった^{1) 2) 3)}。体罰撲滅を目指した議論の中で、小田は「大学と教育現場との連携」および「教員養成大学での部活動経営」に関する提言を行っている⁴⁾。スポーツ活動における体罰問題が、指導者と選手間の関係性を問うスポーツ倫理学における重要なテーマであることを工藤は「愛は暴力を超えられるか～運動部活動における体罰問題を倫理する～」の中で、既に指摘していた⁵⁾。

上記に示されたような緊急の課題により、日本体育協会は、平成26年度文部科学省委託事業「コーチング・イノベーション推進事業」として、「コーチ育成のための『モデル・コア・カリキュラム』の作成事業報告書」を発表した⁶⁾。下村文部科学大臣の「スポーツ指導における暴力根絶」に向けたメッセージを受けて、「指導者がコーチング技術やスポーツ医・科学に立脚して後進をしっかりと指導できる能力を身に付けられるよう養成・研修の在り方を改善する」とともに、「新しい時代にふさわしいスポーツの指導法」が確立されるよう全力を尽くすと示されている。同じく、東京女子体育大学でも平成26年度文部科学省委託事業「学校体育活動における指導のあり方調査研究事業」として、これまでスポーツ指導における体罰問題に真摯に取り組んできた阿江を中心研究者として、「体育系大学における運動部指導者の資質育成」を発表した⁷⁾。この研究成果からの提言として、「教育実習の内容に部活動指導も体験させることを加える必要がある」ことや、「教員免許取得のための教育内容に、クラブ活動（スポーツ以外も含む）の教育が必要である」ことが明記された⁸⁾。

そこで本研究では、これらの問題背景に基づいて、小田が提言した「大学と教育現場との連携」と「教員養成大学での部活動経営」の試みとして、大学近隣にある小・中・高の実習協力校との連携による教育コース実習を企画し、東海学園大学スポーツ健康科学部で教職を志す学生の部活動指導実習の一環としてその実践を試みた。

実習内容は、中・高保健体育および小学校の教員免許状取得を希望する2年次学生を対象として、近隣の実習協力校（小学校・中学校・高校）での授業参観および部活動指導体験を実施した。スポーツ・

*東海学園大学スポーツ健康科学部准教授、**東海学園大学スポーツ健康科学部教授

***東海学園大学スポーツ健康科学部助教

運動部活動の指導に携わる教師としての資質向上を目指し、科学的理論に基づいたスポーツ指導の実践を試みた。本論は、上記の実習に関わる実践報告とする。

2. 実習期間

実習準備：平成26年11月中旬～平成27年2月3日

実習日時：平成27年2月4日（水）

実習後指導：平成27年2月末日

3. 対象学生および職員

2年の教職履修者のゼミは合計で8ゼミある。各ゼミ1名の教員に15～17名の学生が配置されている。これらの教職ゼミ学生を実習対象とした。

学生：スポーツ教育コース2年生120名

教員：スポーツ教育担当10名

4. 実習協力校：

M高校、O中学校、K小学校の大学近隣の3校に、実習の主旨を説明し協力を依頼した。

実習当日の配置は、K小学校：学生26名+教員2名、O中学校：学生40名+教員2名、M高校：学生54名+教員2名、巡回：教員1名、学内待機：教員3名であった。

5. 実習準備スケジュール

1) 教育コース会議（全3回）

①第1回：平成26年11月26日（水）

- ・「とうがく学生コーチ」と称し、M高・O中・K小に実習協力を依頼し、学生に教育現場で部活動指導実習を行うことが提案された。

②第2回：平成26年12月13日（火）

- ・1月13日（火）2限目の専門基礎演習（2年ゼミ）で「とうがく学生コーチ」に関する合同説明会の内容を確認した。同時に協力校の受け入れ状況および引率教員等を確認した。

※実習は専門基礎演習Ⅱの授業の一環とし、2単位時間の授業との振替を可能とする。

※学生1名につき500円の旅行傷害保険をかける。

※必要経費は、コース予算に計上されている。

③第3回：平成27年2月5日（木）

- ・前日に実施された「とうがく学生コーチ」の反省を検討した。

（教育コース会議での実習反省）

高 校：学生が生き生きと活動しており、充実した実習であった。ただ、学生の運動技能が高校生よりも劣っていたのではないかと。1名が欠席した。学生の格好（服装）はともかく、熱心に生徒とともに指導と活動をする姿が意欲的で好感が持てた。

中学校：学校側から2名の教員がついて下さり、準備に当たってくださった。自由な授業参観ができた。部活動の時間が短く残念であった。学生の服装、授業参観させていただく

姿勢が甘かった。部活動の時間が短いので、時期を夏から秋に移せないか？各部活動顧問と学生代表の打合わせが取ればよかった。

小学校：受け入れの準備態勢が万全であり助かった。学生にとっては非常に良い機会であった。学生たちからも前向きな心構えが聞かれた。2名に、頭髪に関する注意を与えた。

2) 実習協力校との打ち合わせ：

実習担当教員が下記の日程で、それぞれの自主協力校を訪問し、事前打ち合わせを実施した。

K小学校（12月3日16：00～）校長および教頭が対応。

O中学校（12月4日15：30～）校長および教務担当教員が対応。

M高校（12月5日15：00～）教頭および体育主任が対応。

3) 実習対象学生との打ち合わせ

①12月9日（火）に、2年各ゼミで「実習希望調査（表1）」を実施した。

→12月中に担当教員が、希望調査に基づいて配属学校・配属部活動を決定した。

（表1）教育コース実習：実習希望調査票

学籍番号		氏名	ゼミ名
学校種希望 ※第1から第3希望まで 番号を記入しなさい。		指導種目希望 ※指導が可能であるスポーツ 種目名を書きなさい。	部活動経験 これまでの部活動経験種目を 書きなさい。
小学校		第1希望	小学校
中学校		第2希望	中学校
高校		第3希望	高校

②1月13日（火）2限11：30～12：20 3号館大講義室にて

2限目の専門基礎演習（2年ゼミ）で「とうがく学生コーチ」に関する合同説明会を実施した。実習校・部活動種目ごとに学生同志が顔合わせをする。さらに、学校別代表責任者を承認し、種目責任者を決定する。学校別打ち合わせを実施する。

→1月29日（木）30日（金）に学校責任者から各校へ連絡予定。ここで各校担当者と学生代表責任者が事前打ち合わせをしておくことを確認する。

→（実習後）実習報告書提出

③1月20日（火）昼休みに、担当教員と学生代表（学校別責任者および部活動種目別代表）との打ち合わせを実施する。

④1月29日（木）の定期試験以降に、各学生代表が実習協力校と打ち合わせを実施する。

→必要に応じて、学生種目責任者は、各実習協力校の部活動顧問教諭と連絡を取り、部活動指導に関する打ち合わせをしておく。

6. 実習当日の実習校別活動

1) K小学校 (学生26名参加)

持ち物：シューズ (内・外両方)、運動ジャージ、名札

交通手段：徒歩 (大学から徒歩10分)

14:30集合 → 講話 (多目的教室)

14:50 - 15:35 授業参観 (6限目)

16:00 - 16:50 部活動

(サッカー9、バスケ10、マーチング・カラーガード7・合唱)

17:00-17:15 まとめ (多目的教室)

※マーチング・カラーガードには、野球や他種目の経験者が参加。

<実習報告：K小学校>

小学校教員免許状取得希望者を含めた26名 (代表：新美龍一郎) が訪問した。まず、多目的教室に案内され、加藤教頭先生からご講話を聴き、校舎内を案内していただいた。K小学校は驚くほど美しく、羨ましいほど広いスペース空間の中で子どもたちは、元気に生き生きと活動していた。

6限目の授業を参観した。指導される先生方の板書の美しさや児童への声掛けの様子、自ら手を挙げて活発に意見を述べる子どもたちの姿に圧倒された。

その後は、いよいよ部活動。ようやく学生の出番である。サッカー部、バスケットボール部、マーチング部、カラーガード部に分かれてそれぞれ参加した。2月の冬時間のため1時間足らずの短い活動だったが、どの部活動も指導に工夫がみられ、充実した活動をしていた。



K小学校実習風景

2) O中学校 (参加学生40名)

持ち物：校内用スリッパ、シューズ (内・外両方)、運動ジャージ、名札

交通手段：徒歩・自転車 (三好丘駅から徒歩10分)

14:00集合 → 講話 (会議室)

14:25 - 15:10 授業参観 (6限目) ※当日、3年生は私立高校入試

15:20 - 16:00 Cタイム (特別活動)、終礼

16:10 - 16:45 部活動

野球7、サッカー7、バスケ13、バレー5、テニス4、卓球4、剣道、柔道

16:50-17:10 まとめ (会議室)

<実習報告：O中学校>

40名の学生 (代表学生：森下真由) が訪問した。まず、校舎内に入り会議室に通され、担当の先生が講話をされた。当日は、中学3年生が私立高校入試で、学校内には1・2年生だけであった。

6限目の授業参観をした。自由に各教室の様子を参観してよいとのことだったが、授業している教室の扉を開けるときには、少し緊張した。授業では、中学生が活発に挙手で発言しており、驚き、大学生として少し恥ずかしい気持ちになった。英語の授業も参観した。授業は楽しそうに活発に行われていたが、突然、私たち学生が先生から指名され焦ってしまった。放課後はCタイムという特別活動の時間が

設定されており、各教室で卒業生を送る会の準備をしていた。

いよいよ出番の部活動になった。学生は、野球部、サッカー部、バスケットボール部、バレー部、テニス部、卓球部にそれぞれ参加した。冬時間とCタイムのために1時間弱のとても短い活動時間だったが、生徒たちは集中して真剣に参加していた。帰りは、完全下校を見守る意味で、先生方が一斉に校門で下校指導をしていた。私たちも下校指導まで参加したが、先生方と生徒たちの何気ない声かけやコミュニケーションをみて微笑ましい気持ちになった。



O中学校実習風景

3) M高校（参加学生54名）

持ち物：シューズ（内・外両方）、運動ジャージ、名札

交通手段：公共交通機関利用原則（徒歩・自転車・バイク可）※自家用車厳禁

14：00集合 → 講話（会議室）

14：25 - 16：15 スポーツ科学科の選択科目（6-7限）に参加実習

体操競技部、陸上競技部6、柔道部、剣道部、バスケットボール部（男）4、サッカー部15、野球部8、ラグビー部、バレーボール部（女）1、ハンドボール部（女）9、カヌー部4（水泳）、ソフトボール部6。

※高校体育には可能な限り専門種目の活動に参加のこと。

※水泳経験者は、カヌー部に参加。

16：15 - 16：30 まとめ（会議室）

<実習報告：M高校>

54名の学生（代表学生：近江衿香）が訪問した。まず、校門のところで先生方が迎えて下さった。そのまま会議室に案内され、教頭先生から県内唯一の体育科を有する公立高校であることや、教師を目指す上での心構え等の講話をいただいた。とても熱心にお話して下さい、身の引き締まる思いがした。



M高校実習風景

次いで体育課主任の先生の指示により、各専門競技種目に分かれスポーツ科学科の選択科目（6-7限）に参加した。学生は、陸上競技、バスケットボール、サッカー、野球、ハンドボール、カヌー、ソフトボールにそれぞれ分かれて参加した。指導については、事前に学生の種目代表者が顧問の先生と打ち合わせを行っていたが、なかなか上手く高校生を動かさず、生徒たちに指導する難しさを痛感した。1時間半程度の短い指導時間だったが、とても充実したコーチ経験ができ勉強になった。

7. 事後指導

2月12日（木）を締切とするレポート課題を課した。課題の内容は「スポーツ教育コース実習を終えて」の自由記述とした。実習に参加した120名中117名が期日通りに提出した。さらに、実習協力校の学校長宛に学部長名でお礼状を送付した。

各学校別に学生の感想を抜粋し、以下に示す。

<K小学校>

- ・中・高と小学校は、指導の仕方、授業、学校の雰囲気作りが全く違うことが分かった。児童の意見を尊重することや発言の回数を増やすことで、コミュニケーション能力や人前で話す能力などが身に付くと思う。学校側から児童へのルールの徹底が大事だと思った。
- ・それぞれの教科やクラスによって授業形態や雰囲気が全く違った。各教科に合った授業の仕方があると分かった。
- ・私は普段、プレーヤーとしてバスケをしているが、小学生に教えるには言葉を噛み砕いて分かりやすく教えることが大変だった。普段の練習から、教えるということを意識していきたいと思った。学生の間にもっとバスケの技術や知識も身につけたい。
- ・大学生よりしっかりした挨拶が小学生にできていて、改めて先生になるなら当たり前のことをしっかりやり、見本となる姿を身につけておかなければいけないと気づかされた。
- ・実習先の先生方はみんな笑顔で、時には厳しく子どもたちに接していた。心から児童を愛しているのだと感じることができ、その気持ちこそが教員を目指す上で一番大切だと思った。
- ・部活動でも熱心に指導されていて、その思いに子どもたちが一生懸命に答えようと努力している様子が印象的でした。この実習で非常に良い経験ができ、前より一層教員を目指す気持ちが高まった。
- ・今回の実習では、教師としてあるべき姿というものを考える機会になっただけでなく、人としてあるべき姿を改めて考える機会になりました。
- ・教頭先生のお話を聞いて「聞く・話す・話し合う」ことの大切さを改めて感じました。小学生に教えていることは、私たち大学生にも必要なことで、「あいさつ」という基本から忘れていたと思いました。
- ・4年生が体育館で1/2成人式の練習をしている様子を見た。その時は児童の様子に感動して鳥肌が立った。正直、子ども達がここまでできるとは思っていなかった。また、きちんとやらない生徒には、きちんと叱る先生の姿も印象的だった。できるのにやらない児童には厳しくちゃんと叱ってあげるのも大切だということを知った。
- ・サッカーで10分間のドリブルをした。速い子と遅い子で大きく差がひらいてしまったが、それぞれが自分の一番の努力で一生懸命に前の人に追いつこうと頑張っていて、むしろそれを見た私の方が「頑張らないと！」と思うくらいだった。
- ・総合的な学習の時間では、先生にあてられてもしっかりと自分の意見をまとめて発表することができていて、私たちよりしっかりとした意見が言えていると思い驚きました。
- ・シュートのアドバイスをして、すぐに実行してシュートが入った児童が、嬉しかったのかハイタッチをして来てくれた。「私のアドバイスが、子どもに通じたんだ」と思うと、私もとても嬉しくなりました。あまり運動が得意でない児童も、やる気がないわけではなく、一生懸命にやろうとしている姿が伝わってきて、苦手だから嫌いだからといって逃げるのではなく、ちゃんと向き合っている姿に私自身が学ばされました。
- ・今回の実習を通して、子ども達から学ばされることが多くあり、「小学校の教師」という将来の選択肢と視野を広げることができ、貴重な経験ができました。

<O中学校>

- ・授業の展開の仕方だったり、生徒とのコミュニケーションの回り方だったり、メリハリのつけ方だったり、いろいろなことを勉強させていただいたと同時に、こんな素敵な職場で仕事がしたいと強く思えた。
- ・たくさんの教室をみせていただき、それぞれのクラスに様々な色があって、教師と生徒が1年をか

けて作り上げていくものなのだと思った。自分が将来教師になれた時には、このクラス作りをすごく楽しみにしている。

- ・生徒と教師の距離感がすごく近いなと感じた。生徒に先生に対する信頼がなかったら、あそこまで生徒は先生に話しかけてこないと思った。先生方の日々の積み上げが生徒たちに伝わっているから、信頼関係が築かれているのではないかと感じた。
- ・今まで生徒として通っていた時には、何の疑問も感じずに生活していたことが、教師を目指す立場になって、学ぶことや疑問に思うこと、そして自分の教職に対しての認識の低さを痛感しました。
- ・授業参観では、生徒皆が私語なく集中して受けていたので、生徒の興味関心を引くような工夫が沢山されていると思いました。この実習で、教育現場でのリアルな教員の指導技術を見ることができるようになりました。
- ・授業では、「挙手・発言カード」というものが準備され、先生の発問に対し、ほとんどの生徒が挙手をして発言している様子を見て驚きました。このような工夫により生徒が積極的に、より主体的に授業に参加する姿勢がみられました。
- ・体育の持久走は、リレー形式で行われていた。そのためチームごとに励まし合ったり、走っている時は友達と競走しながら、またバトンをつなぐ次の人のためにという思いから、少しでも速く走ろうとする姿勢がみられた。1つの種目を実施する際に、教師の工夫1つで苦しいものでも楽しくなったり、嫌なものでも頑張ろうという気持ちを引き出すことができるのだと気づかされた。
- ・部活動は、冬時間で20分という非常に短い時間で行われていたが、その短い時間にどのような練習をするのか、生徒には何を伝えるのが大切になってくると感じました。
- ・顧問の先生は、プレーに対してアドバイスするときに、良いやり方と悪いやり方の両方を示範していたので、とても分かりやすいと思いました。
- ・あまり経験のないスポーツ種目でも、教師となった時には顧問として指導する可能性もあるので、多くの種類のスポーツを経験しておくことも大切だと感じました。
- ・部活動の後には、下校指導もなされていて、きめ細かい指導が行き届いた学校だと感じました。部活動や下校指導をしている先生方は、本当によく生徒のことを見ていると感じた。
- ・バスケットボール部では、生徒の元気さに圧倒されそうだった。活動中に生徒の気が切れてしまいそうなくらい辛い場面では、顧問の先生が指導に入ることで、気が切れずに継続していた。
- ・中学生の授業に参加している姿や放課後の笑顔、部活動中の真剣な表情は学校現場でしか見ることができず、そういった生徒の姿を見て、私自身が教師としてこの場にいたいという気持ちが強くなった。

<M高校>

- ・陸上競技を専門種目として担当したが、「教える、伝える」ということは、まず自分が理解していて、知識をしっかりと身につけていなければできないことだと改めて感じました。
- ・初めて指導を行ってみて、伝えることの難しさ、生徒にかける言葉など、普段自分たちが先生にしてもらっていることが、どれだけ難しく勇気のいることか身をもって知った。
- ・まず教頭先生のお話を聞いて、教職に対する意識が高まりました。中途半端な気持ちでは教師になれないことを考えさせられ、もっと高い意識を持ち時間を有効に使って勉強をしたり、知識を得るようにしなければならぬと思いました。
- ・私が教えたことに対して、真剣に聞いてやろうとしてくれたり、それが上手くできたときに嬉しそうな顔で「ありがとうございます」と言われた時は、とても嬉しかったです。もっと教えるのが上手になりたいと思ったし、もっと教えてもっと上手くなってほしいと心の底から思いました。
- ・顧問の先生が、技術も大切だけれど、その前に挨拶や礼儀を大切にしているとおっしゃっていて、

私も指導する立場になった時にそれだけは社会に出ていく生徒のためにも忘れてはいけないと思いました。

- ・部活動の指導では、3つのことを学ぶことができました。1つめは、指導者の立ち位置です。生徒を集めて話す時、太陽の位置などに配慮すべきだと頭では分かっているにもかかわらず実際には動けませんでした。2つめは、生徒とのコミュニケーションを上手にとることです。3つめは、サッカー指導で練習課題を与えても、その課題に対して意識して練習してほしい部分を上手く伝えることです。
- ・一番初めの対応（印象）で、生徒が指導者をどう見るのか、捉えるのかが変わり、あいさつからとても重要で、うまくコミュニケーションをとっていく必要があると感じました。
- ・指導者の立場になって生徒を指導することの難しさを改めて感じた。今回の実習で、これから何をすればよいのかを知り、初めて指導者という立場から生徒の動きを見て、自分が選手だった時に1つのプレーに対して考えている時に、指導者はどのようなことを考えているのかを知ることができた。
- ・今回の実習で、改めて感じたことが3つあります。1つめは、人に教えることの難しさです。2つめは、生徒とのコミュニケーションです。3つめは、指導者の立場に立たなければならないということです。

8. おわりに

本研究の実施報告のまとめとして、学生のレポート課題の記述内容に従い、本実習から参加学生が学んだ内容を校種別に以下にまとめる。

K小学校では、授業参観から、丁寧な小学校教員の指導法や様々な指導の工夫を実際にみて学ぶことができた。小学校の雰囲気や児童の挨拶の様子から、常日頃大切に指導されている背景を感じ取ることができた。児童の元気でひたむきな様子と真剣に正面から向かい合う教師の教育愛を感じた。児童を褒めることと叱ることの難しさと大切さを知ることができた。児童の授業の様子から大学生になった自分自身の授業への取り組み方を投影した。部活動指導での児童のひたむきな姿に勇気づけられ、学ぶことができた。

O中学校では、授業参観から活発な学級経営の様子が窺われ、教職を目指す上でのよい刺激となった。教師と生徒のコミュニケーションの取り方をみて、その人間関係の距離感の近さを感じ取ることができた。生徒を引き付ける授業での指導の工夫が随所にみられ、その指導技術の高さを学ぶことができた。体育の授業で長距離走の授業を参観し、リレー形式での授業形態や励まし合いの共同学習が上手く機能している様子を見ることができた。部活動指導でも、指導者の示範の仕方や短時間で効率よく練習する方法を考え、学ぶことができた。生徒の真剣な表情や眼差しを見ることによって、教職を目指す意欲が高まった。

M高校では、専門スポーツ種目であっても、学生自身が行うことと、指導者として「伝える・教える」ことの難しさを実感することができた。指導する立場になって始めて、これまで受けてきた指導について振り返る機会となった。教職に対する意識を高めることができた。生徒の真剣な姿勢や反応から、指導者としてのやりがいを感じることもできた。部活動指導では、技術指導だけでなく生徒指導の重要な要素が含まれていることを認識することができた。生徒との距離感とコミュニケーションの取り方を学ぶことができた。

以上の報告から、「大学と教育現場の連携」および「教員養成大学での部活動経営」の実践として部活動指導実習を試みた結果、2年次教職履修学生を対象とした本実習は、概ね意義あるものであり、近隣の実習協力校（小学校・中学校・高校）での授業参観および部活動指導体験を通してスポーツ指導に

携わる教師としての資質向上の一助となることが示唆されたであろう。従って、来年度以降についてもさらに協力校との連携を密にして部活動指導実習を継続したい。

<文献>

- 1) 小田佳子 (2014) 学校現場において教師が有する「体罰」に関する現実的課題, 体育科教育学研究30 (1), pp. 69 - 74
- 2) 斎藤正晴 (2014) 2013年度東海体育学会シンポジウム発表「学校現場では体罰問題をどのように受け止め、指導してきたのか？」東海体育学会会報No.87, pp. 8-11
- 3) 近藤良享・小田佳子 (2014) スポーツ指導と体罰暴力～なぜ、日本のスポーツ指導において体罰・暴力が続いているのか?～, 中京大学体育研究所紀要28, pp.45-51
- 4) 小田佳子 (2014) 学校現場において教師が有する「体罰」に関する現実的課題, 体育科教育学研究30 (1), pp. 73 - 74
- 5) 近藤良享・友添秀則 (2000) 『スポーツ倫理を問う』大修館書店, pp. 127-152
- 6) 公益財団法人日本体育協会 (2015) 平成26年度文部科学省委託事業【コーチングイノベーション推進事業】, 平成26年度コーチ育成のための『モデル・コア・カリキュラム』の作成事業報告書
- 7) 東京女子体育大学 (2015) 平成26年度文部科学省委託事業【学校体育活動における指導のあり方調査研究事業】, 体育系大学における運動部指導者の資質育成
- 8) 東京女子体育大学 (2015) 平成26年度文部科学省委託事業【学校体育活動における指導のあり方調査研究事業】, 体育系大学における運動部指導者の資質育成, p.3